《板書例》　男の心情の推移

「から衣」
・都へ残してきた妻への思慕の念。
←
・都から遠く離れた寂しさ。（技巧的⇓余裕）
「駿河なる」
・さらに都を離れ、山越えのもの寂しさ漂う。
←
・いっそう妻への恋しさを募らせる。
「名にし負はば」
・流浪の旅の果てにわびしさも極限に。
・妻への思慕をさらに募らせ、遠く離れた都を慕い、都鳥に問いかける。